
近未来ヒーロー伝説

パリジェンヌ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

近未来ヒーロー伝説

【NNコード】

N2426Q

【作者名】

パリジエヌ

【あらすじ】

西暦20XX年

地球は完全に安全が保障された惑星になっていた

社会秩序は統制され、惑星規模での警備体制を完備し犯罪率は0%以下となっていた

しかし、人の心に潜む悪までも統制することはできなかつた

西暦20XX年

地球は完全に安全が保障された惑星になつていた

社会秩序は統制され、惑星規模での警備体制を完備し犯罪率は0・1%以下となつていた

しかし、人の心に潜む悪までも統制することはできなかつた

「あらやだ、もうこんな時間？早く帰らなきや」

高層ビルが軒建つ都会から少し離れた郊外

そこに一人の女性がいた

彼女の名前は直木厚子

友人たちからはあっちゃんと呼ばれている

その体系はいわゆるぽっちゃり系というやつだ、お世辞的に言つと年齢と体重は伏せておこつ

職業は新聞記者

日々スクープを求めて世の中を飛び回つてゐる

626階の高層ビルの本社に勤めている彼女がなぜこんな郊外にいるのか？

それは前述した犯罪率0・1%、その根源となつてゐる犯罪者がこのあたりに現れるというので取材に来たのだ

もちろん危険な取材だがその遭遇率は極めて低いため上層部もGOサインを出したのだ

需要はあるがかなり稀なケースのためあまり記事にはされておらず、それを追う記者の数もない

宝探しをするようなものだが、彼女はそれを手に入れて一躍有名になろうとしている、いわゆるトレジャーハンターの1人なのだ

それと、彼女がここにいる理由はもう一つある

悪の前に現れこの社会秩序を守り全てが謎に包まれてゐる正義の・・

・ああ！？

四庫全書

厚子の前に突如現れた靴下のみを身に付けた裸の男
そしてそれを見て悲鳴を上げる厚子

しかし、ここが郊外とは言え本国の首都にあるボリス本部に直結している監視力メラがいたるところにある

「たつ助けてください・・・！」

彼女はカメリナ・アーヴィングの娘である。

無数の細い糸のような物がカメラの内部に入り込みカメラの情報を検査していたのだ

「いや、これは……！？」

嘆然として立ちつくす彼女に男は言つた

「これが俺が犯罪者として生き残れた所以さ……」

「あつあんたが・・・」

彼女はどこにかメテを構えるか男のズネから無数の毛が舞いあが

「無駄だよ」

靴下だと思ったそれはスネ毛だつたのだ
全世界二つ三つ

再び男のスネから毛が舞い上がる

そしてそれは今度は彼女の手足に巻きついた

「一やつ！ 二助けて！」

「……………ン――」

ピカンツ

その時だつた

辺りの闇を無にしてしまつほどいの閃光が周囲を包み込んだ

「なんだ！？」

男は突然の出来事に戸惑っているようだ

そして次の瞬間には純白の全身タイツを身にまとつた正義のヒーローが一人の前に舞い降りていた

「なつ何者だ！」

男の問いに答えるよつヒーローは言つた

「はびこる悪をゆるさない！この世の悪を排除する！正義は純白、悪は黒！僕の名は！正義のヒーロー！タックマン！……」

顔だけがこちらを向き身体はあちらを向いている

この振り向き態勢が彼の決めポーズなのだろうか

「はあつ！」

彼が、タックマンが裏声を上げた瞬間、厚子に巻きついていたスネ毛はいとも簡単に切断された

「シンヘアー教教祖ナオヤ、君を現行犯で逮捕する！」

タックマンは警察手帳ならぬヒーロー手帳を前にかざすと叫んだ

「そつそつはいくかよ！……」

ナオヤはスネ毛を数本抜きとるとそれを厚子へ投げつけた

それは空を舞う間に瞬く間に巨大な槍と化し彼女との距離を詰めた

「ひつ」

思わず情けない声を上げ腰を抜かした厚子だが閃光とともに槍は姿を消した

「なつ・・・」

ナオヤはタックマンのシャインマジックに驚きを隠せないよつだつた
「観念しろ、毛を剃れとは言わないさ」

タックマンが膝をついたナオヤに手を差し伸べる

「悪は・・・栄えないんですね・・・」

そつ言つたナオヤの顔はまるで無邪気に遊びまわり夕方公園に迎えに来た母親に見せる子供の笑顔のようだつた

「そうさ、行こうか」

そういうと一人はほのかな光に包まれ始めた

「待つて！タックマン！その・・・あ、ありがとうーま・・・また
いつか・・・！」

厚子がとつさに言えるのはそれだけだった

「悪があるから僕はいる、もう君の前に姿を現すことはないだろつ、
アディオス！」

タックマンは彼女に微笑みかけると光とともに姿を消した

厚子は一人になつた

「タックマンの写真撮れなかつたな・・・でもいいんだ、タックマ
ンは私の心という名のフィルムの中に永久保存されたんだから・・・」

厚子は何とも言えない清々しい気分で帰路についた

ありがとうタックマン、カッコいいぞタックマン

彼はこれからもどこかの星の未来を、正義を守ってくれることだろ
う

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2426q/>

近未来ヒーロー伝説

2011年1月26日03時45分発行